

令和4年度 学校アクションプラン

富山県立中央農業高等学校

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題1	学習習慣の確立と学習意欲の向上	タブレット活用した授業の取り組み
現 状	<p>学びの基礎力診断テストを実施し3年目となった。可視化されたポイント獲得、自学自習ノートが生徒たちの学習意欲の向上・自信につながり始めてきている。</p> <p>しかし、生徒たちの学力差も大きく、基礎学力の確実な獲得には、より生徒の実態に応じた指導が大切であると考えらる。</p>	<p>昨年度、生徒、教員にタブレットが貸与され、多くの授業でタブレットが活用されている。中学校でもオンライン授業等が実施されていたため、生徒たちは抵抗なくタブレットを用いた授業に取り組むことができている。</p> <p>しかし、タブレットを正しく使用ができていない生徒もいるため、丁寧に操作等を指導する必要がある。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・躍進賞獲得（2回目が20点以上成績がアップした）・・・学年30%以上 ・優秀賞獲得（ポイント30点以上）・・・学年50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを適切に活用ができる。 ・生徒の授業満足度が高まる。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイント制の継続 課題の提出状況、得点の伸長状況、自学自主の取り組み状況によりポイントを付与し、可視化する。 ・自学自習の取り組み 自学自習ノートの配布 ・学び直しの科目「中農チャレンジ」の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの利用を進め、生徒の授業理解度・満足度が高まる工夫を行う。 ・学期毎にアンケートを実施し、理解できていない生徒には、研修会を行ったり、授業中に重点的に指導したりする。 ・必要に応じ、「農業と情報」の授業と連携をとりながら指導していく。

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	農業教育の充実（個々の能力を最大限に伸ばす）	
重点課題2	「資格取得と客観的評価」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」	
現 状	<p>昨年、資格習得に対する具体的目標を示したが、指導体制や各職員、各学年の資格習得に対する意識が統一されていなかった。このことにより、日頃の農業教育による学習効果が十分に発揮されていなかった。</p>	
達成目標	<p>(1) ・1学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 20%以上</p> <p>・2学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 30%以上</p> <p>・3学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 40%以上</p> <p style="padding-left: 40px;">「同上2級」 学年合格者 3名以上</p> <p>(2) 生徒が1年間で1つ以上の検定合格や資格を取得する。取得割合60%</p> <p>(3) アグリマイスター顕彰制度 による認定者数</p> <p style="padding-left: 40px;">プラチナ3名、ゴールド3名、シルバー3名以上</p> <p>(4) とやま高校生マイスター認定者の輩出</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定の実施日、補習日程については保護者・生徒に連絡する。 ・各種検定の指導体制については事前に農業科会議等で検討する。 ・各種検定取得のメリットを理解させ、より多くの検定受検に挑戦するようにクラス担任、生徒に意識的に働きかける。 	

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活(校則の遵守と交通事故の防止)
重点課題3	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できる。(時間の管理) ・登下校時において交通事故の危険を回避することができる。(命の尊さを考える) ・民法改正による18歳成人引き下げに伴い、生徒自らが自己の行動に責任を持つことができる。(自己責任)
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活3か条は、過去の取り組みから、年々意識向上している。今年度もこれらを定着させるために、粘り強い指導を継続する。 ・交通安全への意識は十分とはいえないため、継続的に指導する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される中農生」への意識向上 ・登校時のあいさつ運動 ・時間管理がしっかりできる [達成目標]：生徒へのアンケートにおいて達成できた90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施 ・各学期の始業式と終業式および、大型連休前に校則の遵守指導を実施 ・生徒会執行部と希望者による平日8:00～8:20に寮から本館の渡り廊下付近にて「あいさつ運動」を通年実施 ・生徒会執行部を中心に時間管理や自己責任の啓蒙活動を実施。 ・HR会長、風紀委員を中心に生徒への呼びかけを実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車、歩行による交通安全意識の向上 [達成目標]：交通ルールを守る意識 事故件数 ゼロ
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室において意識調査の実施 ・全体への指導：各学期の始業式と終業式および大型連休前に交通安全指導を実施する ・交通安全街頭指導の継続(中農坂～福沢地内) ・校地内(中農坂～T字路まで)の自転車運転の禁止と安全点検の徹底

令和4年度 中央農業高等学校アクションプラン - 4 -	
重点項目	寮生会活動の活性化について
重点課題4	寮生会が主体となって、寮生の安心と安全を保障し、且つ充実した生活を送れるような、寮運営を進めていきたい。そのための意識の涵養を目指すものである。
現 状	<p>現在、寮生会の諸活動および、寮内のルールは、主に教員が中心となって計画・運用されている。寮生の自治組織である寮生会が主体となって、行事の計画、立案及び運営していく体制を整えるとともに、自らルールを設定し、全寮生へ周知、徹底を図ることを目標とした、寮生会運営を望むところである。以上のことから、下記の通り、対策を講じていきたい。</p> <p>対策1 『寮生会役員会について』</p> <p>定期的な役員会を設定し、諸行事と規則についての話し合いの場を設ける。話し合われた内容をまとめ、寮生への周知の仕方等について検討させる。</p> <p>対策2 『寮生集会について』</p> <p>学期に1度程度の集会を設け、役員会で諮った内容を周知させるとともに、組織的な運営の仕方について、学ぶ機会とする。</p>
達成目標	<p>①月1回の寮生会役員会の実施と学期に1回の寮生集会を実施できる。</p> <p>②寮生が主体となって行事等を企画、立案、運営することができる。</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・寮生会顧問および寮務部職員が中心となって指導し、活動を具体化させる。 ・寮生全員が協力し、寮運営が進められるよう奮起を促す。

重点項目	進路支援				
重点課題5	進路先の確保、インターンシップ体験率の向上				
現 状	<p>本校は農業をはじめ多様な分野へ就職または進学をしている。そのため生徒自身が各自の適性を理解するとともに進路意識を高めることによる適切な進路決定を目指し、主として2年生の夏季休業中にインターンシップを実施している。未体験者についてはその後の長期休業中での実施を勧めているが、3年生での実施は難しい場合が多いため、できるだけ2年生で体験することが望ましい。</p> <p>また昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大が就職求人等に及ぼす影響は不鮮明である。</p> <p>・過去3年間のインターンシップ実施状況 (※数字は各年度2月調査のもの、分母は在籍数)</p>				
	第2学年までの体験者数	H30年度 48/66人 (73%)	R元年度 33/48人 (69%)	R2年度 46/57人 (81%)	R3年度 34/41人 (82%)
	↓	↓	↓	↓	↓
	第3学年までの体験者数	H31年度 49/63人 (78%)	R2年度 38/47人 (81%)	R3年度 47/56人 (83%)	
達成目標	3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率90%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が就職を希望している企業等への訪問を早期（5月頃）に行う。 ・進学希望者の個別受験指導について早めに計画し進めていく。 ・インターンシップについては、各生徒の担当者を明確にし、積極的に体験できるようにはたらきかける。 				

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった